



ヨコハマ会 市議員団
子どもにツケをまわさない!
“横浜から日本を創る”
横浜市議 おばた正雄氏

<ご相談・ご連絡先>
事務所：金沢区谷津町 332
TEL：045 - 783 - 7869
FAX：045 - 786 - 5315
✉ m_obata@palette.plala.or.jp
(mの次_はアンダーバーです)

放射線対策部の設置で市民の不安を解消 放射線量、過度の心配は不要です 国は早く確実な基準を!!

Q・横浜市の放射線対策は？
A・東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射線対策は、6月1日に健康福祉部に設置し、総合的な放射線対策を実施して

Q・具体的には？
A・放射線対策については、これまでの横浜市の調査で、市の全体的な空間線量は地域的な片寄りがなく問題のない値であることを確認しています。市では市民の皆さんの不安を払拭するために、

Q・市民にどんな広報をしていますか？
A・市は、9月10日に広報よこはまの「放射線特集」号(A3の4頁)を13.5万部作成。新聞折込でご家庭に配布するとともに、鉄道の全駅に置きました。この内容は、

Q・放射線医学の専門医の見解は？
A・横浜市立大学大学院医学研究科(放射線医学)の井上登美夫教授は、放射線科専門医の立場から「子どもを持つ保護者の方が、今回の原発事故に関連した学校の校庭や食材の放射能汚染を心配されている気持ちはよく理解できます。しかしながら、長年放射線医療に携わってきた医師と

の中からストロンチウムが測定されました。そこで国に対して、調査範囲を本市内を含め拡大することを要望しました。

Q・市民にどんな広報をしていますか？
A・市は、9月10日に広報よこはまの「放射線特集」号(A3の4頁)を13.5万部作成。新聞折込でご家庭に配布するとともに、鉄道の全駅に置きました。この内容は、

①放射線の基礎知識を学んでみましょう。
②規制値は、「安全と危険の境界」ではありません。
というもので、たいへん分かりやすく良くできています。

なお、放射線とがんのリスクについては「100〜200 mSv(ミリ・シーベルト)のがんのリスクは1.08」です。がんのリスクを考える上では、この数字は喫煙、大量飲酒、運動不足、肥満、やせ、高塩分食品より低いといえます。

Q・放射線医学の専門医の見解は？
A・横浜市立大学大学院医学研究科(放射線医学)の井上登美夫教授は、放射線科専門医の立場から「子どもを持つ保護者の方が、今回の原発事故に関連した学校の校庭や食材の放射能汚染を心配されている気持ちはよく理解できます。しかしながら、長年放射線医療に携わってきた医師と

して、現在公表されている横浜市の空間放射線量などの測定結果を見ると、放射線の問題を過度に心配する必要はないと考えます。むしろ、心配・不安などによるストレスの方が健康に影響するのではないかと懸念しています。」との見解を示しています。このように放射線の問題は横浜市では心配ありません。

Q・何が問題ですか？
A・国の責任が明確でないことです。放射線の害を過度に煽り、風評被害や風評加害ともいえる論評をするグループがあります。国が早く明確な方針を示すことです。市は国に確実な基準や対応を示すよう申し入れています。